



**問** 保育所の入所待ち解消を急いで

**答** 百塚保育所を増築し、待機児減少を図りたい

日本共産党 大名美恵子 議員

**議員** 働く親にとり子どもが入所できる保育所がないことは、働き続けられるかどうかに関わる深刻な問題である。現在の入所希望の状況を伺う。

**福祉部長** 保育所入所児童数は12月1日現在、公立・私立合わせて725人で、定員を大きく超えている。一方、入所待機児童は、昨年10月1日時が9人、本年4月1日には33人と一気に増え、12月1日現在では50人を越えた。待機児童に係る今後の見通しは、新たな入所申し込み数と小学校入学児童数とを比較しても、待機児童が大きく減少するとは考えにくく、村としては、定員超過および待機児童の早期解消に向け、平成26年度中の幼保連携施設の供用開始に先立ち、現在の百塚保育所を

平成25年8月頃の完成を目指して増築し、待機児童数の減少を図りたいと考えている。

**議員** 定員超過により保育所入所が不可能の場合、勤務先と調整して育児休業を延長するか、延長が認められないときは離職という状況も考えられる。行政の証明書発行により、育児休業の延長手続きが円滑になる場合があると聞いたが、本村では証明書の発行を行っているのか伺う。

**福祉部長** 相談があった時には発行し、延長手続きをサポートしている。



**問** 災害時非常用持ち出し袋の全戸配布を

**答** 持ち出し袋を配布する考えには至っていない

公明党 植木 伸寿 議員



**議員** 住民が防災への意識を高めるために、災害非常用持ち出し袋を配布できないか伺う。

**経済環境部長** 村は、昨年の震災を教訓にコミセンへの避難者3,500人と想定し、3日分の食料と水等の備蓄に努めているところで、非常用持ち出し袋は各自で備えてもらうよう地域のセミナー等で説明している。

**議員** 日立市では、市独自で作成した持ち出し袋を本年10月から市内全世帯対象に郵送で配布した。厳しい時だからこそ村民に対し大きな励ましを送る事業となるのではないか。また、災害規模が大きく、避難所まで来られないことも考えられる。持ち出し袋の配布について検討できないか再度伺う。

**経済環境部長** 先程述べた備蓄を優先しているため、災害についてはさまざまな状況も考えられるものの、現状では持ち出し袋の配布までは考えが至っていない。

**議員** 防災計画も策定されたが、計画に人をはめ込むのではなく、どこまでも「人の命を災害から守る」との視点で今後も推進をお願いする。

